

秋も深まり、身近なところでも紅葉を目にするようになってきました。こんな季節がもう少しゆっくりと流れればいいなと思います。

現在会員登録数 3,927 人さま。次号は 12 月 20 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■-----■

【1】お知らせ

■-----■

●令和4年10月21日に、前理事長の三宅興子特別顧問が永眠されました。謹んでご冥福をお祈りします。

●令和4年11月2日に、元理事長の松居直特別顧問が永眠されました。謹んでご冥福をお祈りします。

●講演と鼎談「国際児童文学館所蔵資料にみる絵本史にかがやく名著たち」  
大阪府立中央図書館 国際児童文学館の企画展示（当財団協力）にあわせ、  
絵本の歴史をたどり、展示資料のすばらしさを伝える講演会を開催します。

講師：宮川健郎（当財団理事長）＝講演・鼎談

遠藤 純（当財団特別専門員）、土居安子（当財団総括専門員）＝鼎談

日時：12月11日（日） 14：00～16：00

場所：大阪府立中央図書館 2階 多目的室 定員：60人 参加費：無料

申込方法：ホームページ「参加申込」から、または、電話、ファックスで

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html#20221211](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#20221211)

●講演会の報告集を販売しています

『2021年度国際交流事業報告集 オンライン国際講演会「ことばを超えて  
ー絵で物語るー』』（講師：デイヴィッド・ウィーズナー、ショーン・タン）

2022年10月発行 1,100円（税込）

『2021年度講演会報告集「シンデレラ話の多様な世界を楽しもう』』

（講師：横川寿美子） 2022年6月発行 880円（税込）

『2020年度講演会報告集「しかけ絵本に驚く、楽しむ イギリスの歴史から

はじめて』』（講師：三宅興子） 2022年3月発行 1,430円

詳細、その他の出版物は ↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/05\\_publication/index.html#hanbai](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/05_publication/index.html#hanbai)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

\*年間1万円以上ご寄付いただいた方には、イイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable → <https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/m1\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html)

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■ ----- ■  
【2】コラム  
■ ----- ■

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『ひこぼしをみあげて』 瀧羽麻子/作 今日マチ子/絵 偕成社 2022年11月  
対象年齢：中学生から

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

あらすじ：中学校に入学した千春は、クラスの隣の席の那彩（なさ）と友だちになり、那彩と一緒にいった天文部に入る。最初は天文に詳しくないことに気が引けていたが、3年生の二階堂先輩に「心配しなくても、知識は勝手に増えると思うよ」と言ってもらって、気が楽になる。そして、那彩との友情を深めたり、もう一人の3年生の片瀬先輩にあこがれたりしながら、夏合宿や文化祭などの行事を経て1年を過ごす。

T：前作『たまねぎとはちみつ』（偕成社 2018年11月）では主人公の千春が5年生でしたが、この作品では中学1年生になっています。前作同様、「さりげなさ」が魅力だと思いました。

Y：わかります。例えば、千春は天文に詳しい那彩をうらやましいと思い、那彩は天文について熱く語る自分に千春が無理してつきあってくれているのではないかと思っていたことをお互いが打ち明ける場面があります。ここまでなら、他の作品でもあるのですが、そのあと、二階堂先輩がそんな二人に対して「けんかしないで」と事実とは違うことを言い、二人は「もめてません」と声をそろえます。このことによってぐーっと二人の仲が縮まった

ことがユーモアを交えて描かれています。

T：最近の児童文学には、ヤングケアラーや貧困など、今の子どもが置かれている厳しい状況を描いている作品が数多くあって、それはとても意義深いことだと思います。一方で、そこまで深刻な問題を抱えていない子どもも、一人一人悩みながら生きています。そんな子どもたちを描いているところに、この作品の大きな魅力があります。

Y：登場人物たちが、友だち関係や恋愛などに胸をときめかせたり、不安を感じたりしている様子が状況として丁寧に描かれ、読者は人物の気持ちを読み取ることができます。そして、登場人物の家族のありようがさまざまで、かえって「ふつう」ってないんだなあと感じかされます。

T：2年年上の片瀬先輩を見つめる千春のまなざし（ひこぼしをみあげる様子とも言えるかもしれません）、片瀬先輩が天文部の顧問の葉山先生に恋こがれる様子がとてもリアルだと思いました。また、千春と那彩の友情とともに、片瀬先輩と二階堂先輩の友情も描かれ、先輩たちの過去が明かされるところは、謎解きともいえる展開になっています。

Y：千春の片瀬先輩との出会いと別れが描かれているとも言える「一学期」、「夏休み」、「二学期」、「冬休み」、「三学期」という章立ても巧みだと思いました。

\*\*\*\*\*

## 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

### 第87回「革トランク」

平太と父、やりとりの行方

工学校の入学試験にまぐれで合格した齊藤平太は、教師が成績の計算ミスをしたために何とか卒業でき、卒業後は家に戻ります。農を家業としつつ、村長でもあった父と相談のうえ、〈建築図案設計工事請負〉という看板を掲げます。するとさっそく依頼も来て、二階建ての村の消防小屋と分教場を造ることになります。

ところが、できてみれば消防小屋には梯子がなく、分教場には廊下がないという欠陥建築で、ひどくがっかりした平太は逃げるように上京します。東京で仕事を探しますが見つからず、食べられず卒倒したりもしますが、それでも二年後には建築関係の仕事にも就き、どうにか現場監督となります。この間、平太は二度ほど父に虚栄心に満ちた葉書を出しますが、父は応えません。

その頃、郷里より「母病氣」の電報が届きます。平太は立派な革トランクを買い、ここに〈板の上に引いた要らない絵図を三十枚ばかり〉ぎっしり詰め、故郷の停車場に降り立ちます。父でもある村長は、その大トランクを見て〈にが笑い〉をするところで物語は閉じられます。

賢治自身、大正十年に突如家出上京し、妹トシ病氣の報にて帰郷、その際に大きなトランクに原稿をいっぱい詰めて持ち帰ったと言われており、本作が作者自身のカリカチュアであることは夙に指摘されています。作中、繰り返し登場する〈こんなことは実に稀れです〉という印象的なフレーズは、実は全

く稀れではなかったことを強調しているとも言えます。

見栄えこそ立派ながら、中身の伴わない革トランクを抱えて帰郷する平太。偶然にして、実学とはかけ離れた学校入学と卒業、父の支援による実業の開始、そして有用性のない成果物による失敗と挫折を経ての逃避。場当たりの、かつその場しのぎにも見える平太の歩みのなかに、父の敷いた「実」のレールに乗りつつも、一方でそれを拒絶する彼の姿が垣間見えるようです。

平太のトランクは空虚であり、立派なトランクは彼の虚栄心の表れなのかもしれません。しかしこうした「トランク」を持たなければ、平太は権威的な父とやり合っただけで済まなかったとも言えます。彼の人生の節目節目に登場してくる父。末尾、その父がトランクをみて〈苦笑い〉をしているのが気になります。平太のことをすべて見通していたのかもしれませんが、父が帰郷した平太にどのような言葉をかけたのか、この作品の両者のやりとりの行方が気になります。(ペ吉)

(本文の引用は、筑摩書房刊『宮沢賢治コレクション4 雁の童子』によりました。)

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のことば 41

\*\*\*\*\*

「さあ ふゆくん おはいりよ。  
はいって ちょっと  
あったまったら どう。」

(「おきやくさま」『ふくろうくん』 アーノルド・ローベル/作 三木卓/訳  
文化出版局 1976年11月 p.9)

10月21日(金)に当財団の前理事長で、特別顧問の三宅興子先生が旅立たれました。先生は、英語圏を中心にしながらも世界的な視野で児童文学研究や絵本を広く、深く研究し、私たちを指導してくださっていました。先生ならどんなふうに見えるかな、どうおっしゃるかなと考えながらこれからの仕事をしていきたいと思えます。

私が先生に最後にお目にかかったとき、病床の先生に本を「お読みしましょうか」とうかがうと、『ふくろうくん』を読んでほしいとおっしゃいました。そして、「ふくろうくんのように、ソファに座って静かに本を読みたいと思っていたけど、結局できなかった」と笑っておっしゃいました。

確かにローベルの絵には、ふくろうくんがソファに深く座って本を読んでいる絵があります。しかしながら、作品を読んでみると、ふくろうくんはいつも静かに本を読んでいたとは言えません。引用した「おきやくさま」では冬を招き入れますし、「なみだのおちゃ」では、「かなしかったこと」を思い出して盛大に泣き、「うえとした」では、自分が1階と2階に同時にいたいと思って階

段を上ったり下りたりを繰り返します。

つまり、好奇心が強く、行動的で、誰をも受け入れる度量の深さがある、失敗してもたくましく生きる術を持っているのです。そして、本好き。そういう意味で、ふくろうくんはまさに三宅先生だったなあと思いながらこの本を読み返しました。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

美術館「えき」K Y O T Oで12月25日まで開催されている「柚木沙弥郎 | i f e · L I F E展K Y O T O」に行ってきました。柚木沙弥郎さんは、1922年生まれで100歳の染色家でアーティストです。今回は、絵本の原画、ポスター、紙粘土と布で作った人形、メキシコの玩具、染色された布、型染の型紙、図案のスケッチブックなど100点以上が展示されていました。

展示の前半は絵本の原画がずらりと並んでおり、お話を読みながら見ることができます。柚木さんは倉敷の大原美術館に就職した24歳の時、柳宗悦の「民藝」に出会い、芹沢銈介に師事し染色家となりました。そして、初めての絵本が70歳を過ぎてから出版されました。『そしたらそしたら』（谷川俊太郎文福音館書店 2000年）『おふねがぎっちらこ』（「こどものとも 0.1.2」2009年5月号）などの絵本は型染の手法で描かれています。『せんねんまんねん』（まどみちお詩 理論社 2008年）は水彩の色鮮やかな絵で、まどみちおの詩と調和して、いのちが宇宙まで広がる大きさを感じることができます。

宮沢賢治の『雨ニモマケズ』（ミキハウス 2016年）の原画もありました。賢治に関しては、絵本のほかにも、宮沢賢治作品のドローイングや、光原社の絵葉書、光原社主催イベントのポスターなどもあり、民藝と賢治の思想の共通性を見ることができました。

後半は、いろいろな模様の型染や注染の大きな布が吊るされています。照明とあいまって、布に染まった赤や緑、黄色、青色などの色の美しさにとれましました。

柚木さんの作品からは伝統的な染の技術の魅力と、幾何学的な模様や色使いから新しさとユーモアのセンスが伝わってきて、落ち着きと元気をもらったような気がしました。(K)

美術館「えき」K Y O T O <https://kyoto.wjr-isetan.co.jp/museum/>

■ ----- ■

### 【3】全国のイベント紹介

■ ----- ■

● 資料展示「国際児童文学館所蔵資料にみる 絵本史にかがやく名著たち」明治以降、印刷技術とともに発展してきた日本の絵本の歴史を国際児童文学館の所蔵資料でたどります。

会 期：開催中～12月28日(水) 休館日あり  
会 場：大阪府立中央図書館 展示コーナー、国際児童文学館(東大阪市荒本)  
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館  
協 力：大阪国際児童文学振興財団 (IICLO)

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■

#### 【4】プレゼント

■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ひこぼしをみあげて』をプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.147 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ

office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は12月10日(土)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

今日は「小雪(しょうせつ)」。立冬から数えて15日目ごろで、「大雪(たいせつ・12月7日)」までの期間を言うようです。次第に冷え込みが厳しくなってくる時期で、冬の備えをする目安にもなるとのこと。暦を身近に感じながら生活していた昔のひとたちの知恵を感じます。(T A)

-----  
-----

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いいたします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

-----

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

-----  
-----